

第1章 計画策定にあたって

1 策定の趣旨

平成20年2月に策定した「伊勢原市市民生涯スポーツ振興基本計画(計画期間は平成19年度から平成24年度)」を経て、平成25年度に策定された「伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画」(以下「前計画」という。)の評価及び現在のスポーツ推進等の状況を踏まえて「第3期伊勢原市市民生涯スポーツ推進計画」(以下「本計画」という。)として策定しました。

計画策定にあたり、令和4年2月に「市民の体力・スポーツに関する調査」(以下「本調査」という。)を実施し、スポーツに関する市民の意見や要望等の実態把握を行い、前計画の進捗状況を評価するとともに、本計画策定の基礎資料としました。また、計画の基本的事項である「基本理念」については、普遍的なものであることから前計画を継承することとしました。

本市の健康・文化都市宣言を踏まえ、健康づくりの組織強化のため、平成29年4月にスポーツに関する事務(学校における体育に関するものを除く。)を教育委員会から市長部局に移管し、競技スポーツやスポーツ・レクリエーションなど生涯スポーツの持つ多面的な役割をより効果的に推進する施策を展開するとともに、有料公園スポーツ施設の管理業務をスポーツ課に移管することで、有料スポーツ施設の窓口を一本化し、既存の運動・スポーツ施設の整備や充実に関する施策を展開することとしました。

また、前計画の計画期間の後期においては、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい多くのスポーツ事業の中止やスポーツ施設の利用制限があり、施策の成果においても大きな影響がありました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大からスポーツの喪失・制限により様々な影響が顕在化したことで、スポーツが日ごろ私たちの生活や社会に活力を与えるなど、優れた効果を及ぼす重要な価値を持つことが改めて示されたことから、3密の回避や消毒の徹底など「新しい生活様式」を取り入れたスポーツ推進の施策を展開していく必要があります。

新たなスポーツに関する事項として、スポーツ基本法(平成23年法律第78号「以下「基本法」という。)」並びに第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日文科科学省)、神奈川県スポーツ推進条例(平成29年3月28日条例第3号)、神奈川県スポーツ推進計画(平成29年3月)を斟酌するとともに、伊勢原市教育振興基本計画や伊勢原市のまちづくりの指針である「伊勢原市総合計画」のスポーツ施策と整合を図り策定しました。

なお、計画の期間は、5年間(令和5年度から令和9年度)とし、必要に応じ見直すこととします。



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン

2 市民の体力・スポーツに関する調査の概要

調査の基本的事項

この計画を策定するにあたり、市民の体力・スポーツに関する現状及びスポーツニーズを的確に把握するため、次の方法により市民の体力・スポーツに関する調査を実施した。

- 1 調査対象者 市内に居住する 20 歳以上 79 歳以下の者(令和 3 年 12 月時点)
- 2 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 3 調査方法 無記名によるアンケート調査票を用いた郵送調査
(回答は市ホームページからも可)
- 4 調査期間 令和 4 年 2 月
- 5 回収状況 調査標本数 2,000 サンプル ⇨ 有効回収標本数 605 サンプル
有効回収率 30.3%(男性:264 名・女性 321 名)

3 市民の体力・スポーツに関する調査の結果

(1) 運動やスポーツの実施状況

本調査の結果、この1年間で運動・スポーツ実施者が 73.1%となり、前回調査(平成27年度)の 79.0%に対し、5.9 ポイントの減少が確認されました(表 1-1)。一方で、週1回以上、運動・スポーツを実施する人は、本調査では 53.4%、前回調査では 54.5%と 1.1 ポイントの減少がありますが、実施者の割合に大きな変化がないことが確認されています(表 2-1)。

前計画の実施目標として、成人の週 1 回 30 分以上の運動・スポーツ実施率を 65%としています。本調査及び前回調査の実施率は 50%台で目標を達成していません。本調査の実施率については、コロナ禍であることも影響していると考えられます。

表1-1 市民の運動・スポーツの実施状況

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
していない	118	19.5	241	21.0
している	442	73.1	906	79.0
無回答	45	7.4	0	0
合計	605	100.0	1147	100.0

注) 運動・スポーツの実施状況:この1年間で 30 分以上の運動・スポーツを実施した人の状況

表 1-2 市民の運動・スポーツの実施状況(世代別)

項目	20 歳代 (n=30)	30 歳代 (n=65)	40 歳代 (n=94)	50 歳代 (n=103)	60 歳代 (n=122)	70 歳代 (n=170)
していない	26.7%(8)	32.3%(21)	18.1%(17)	24.3%(25)	10.7%(13)	17.6%(30)
している	70.0%(21)	66.2%(43)	78.7%(74)	74.8%(77)	80.3%(98)	66.5%(113)
無回答	3.3%(1)	1.5%(1)	3.2%(3)	1.0%(1)	9.0%(11)	15.9%(27)

表1-2

□していない □している □無回答

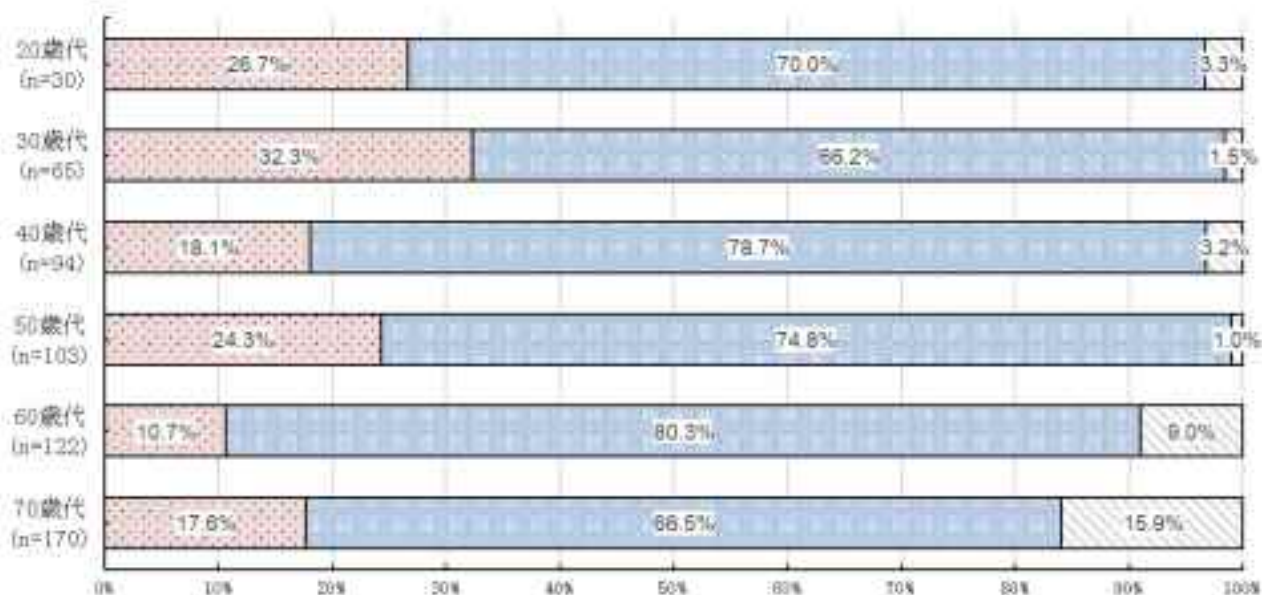
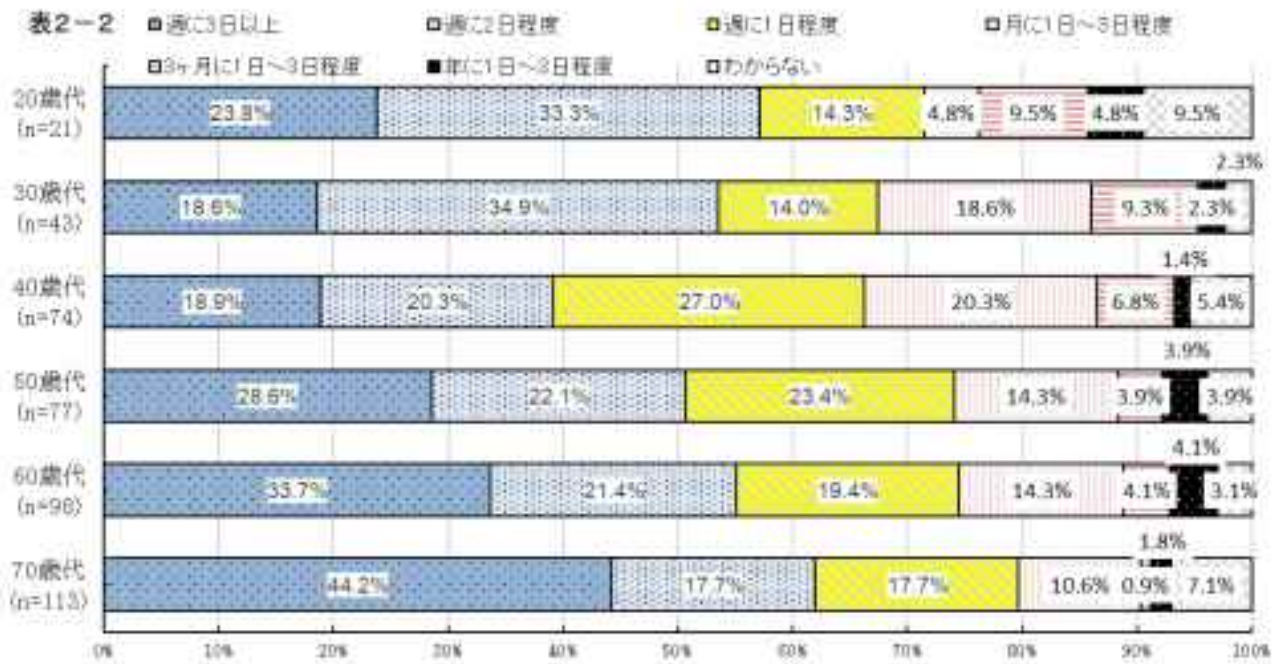


表 2-1 この1年間の運動・スポーツの実施状況

項目	R3 度調査		前回調査	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
週に3日以上	139	23.0	252	22.0
週に2日程度	97	16.0	216	18.8
週に1日程度	87	14.4	157	13.7
月に1日～3日程度	64	10.6	120	10.5
3ヶ月に1日～3日程度	20	3.3	40	3.5
年に1日～3日程度	12	2.0	36	3.1
わからない	23	3.8	85	7.4
していない	118	19.5	241	21.0
無回答	45	7.4	0	0
合計	605	100.0	1147	100.0

表 2-2 この1年間の運動・スポーツの実施状況(世代別)

項目	20歳代 (n=21)	30歳代 (n=43)	40歳代 (n=74)	50歳代 (n=77)	60歳代 (n=98)	70歳代 (n=113)
週に3日以上	23.8%(5)	18.6%(8)	18.9%(14)	28.6%(22)	33.7%(33)	44.2%(50)
週に2日程度	33.3%(7)	34.9%(15)	20.3%(15)	22.1%(17)	21.4%(21)	17.7%(20)
週に1日程度	14.3%(3)	14.0%(6)	27.0%(20)	23.4%(18)	19.4%(19)	17.7%(20)
月に1日～3日程度	4.8%(1)	18.6%(8)	20.3%(15)	14.3%(11)	14.3%(14)	10.6%(12)
3ヶ月に1日～3日程度	9.5%(2)	9.3%(4)	6.8%(5)	3.9%(3)	4.1%(4)	0.9%(1)
年に1日～3日程度	4.8%(1)	2.3%(1)	1.4%(1)	3.9%(3)	4.1%(4)	1.8%(2)
わからない	9.5%(2)	2.3%(1)	5.4%(4)	3.9%(3)	3.1%(3)	7.1%(8)



(2) 運動・スポーツ実施の有無の理由

運動・スポーツ実施の理由は、「健康・体力づくりのため」が 65.2%と半数以上が回答し、「運動不足を感じるから」が 51.2%、「楽しみ、気晴らしとして」が 52.4%となりました。実施理由は、心身への健康を目的とした実施が上位を占めていた一方で、コロナ禍の影響もあり、「自己の記録や能力を向上させるため」「友人・仲間との交流として」と回答した割合は前回調査時より減少していました。

(表 3-1)

表 3-1 この1年間で運動・スポーツを実施した理由(複数回答)

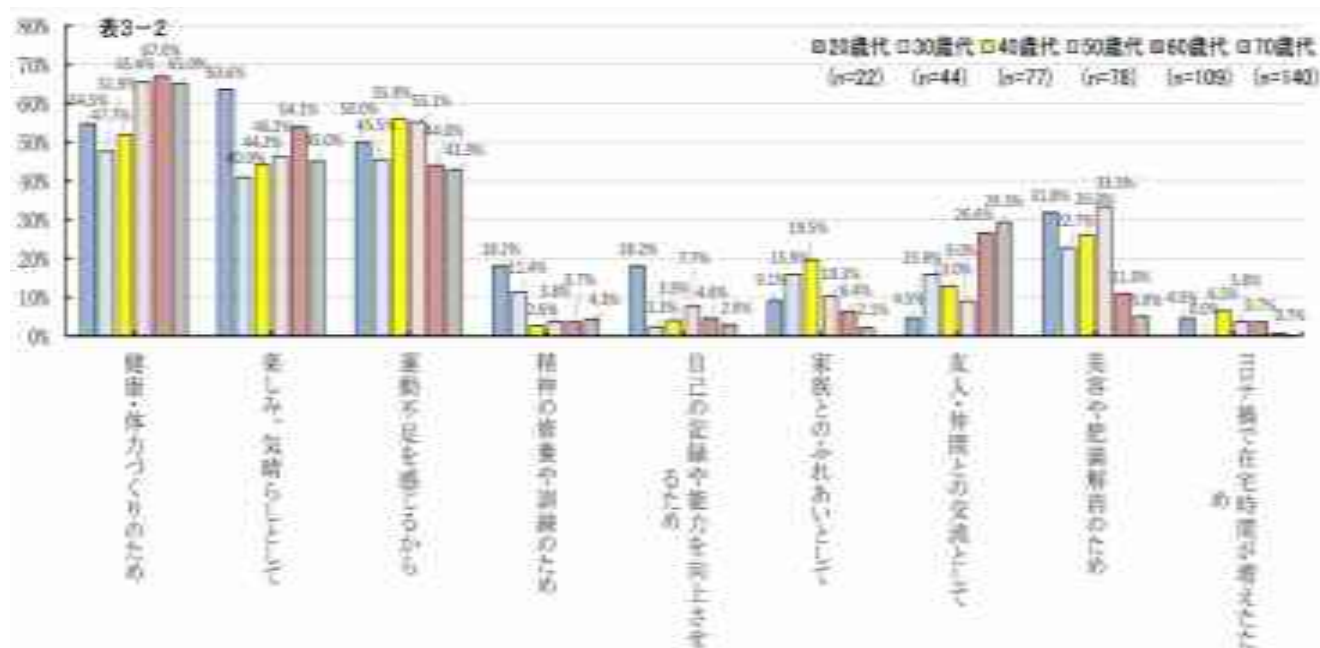
項目	R3 年度調査(n=445)		前回調査(n=906)	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
健康・体力づくりのため	290	65.2	564	62.3
楽しみ、気晴らしとして	228	51.2	479	52.9
運動不足を感じるから	227	51.0	342	37.7
精神の修養や訓練のため	25	5.6	37	4.1
自己の記録や能力を向上させるため	25	5.6	95	10.5
家族とのふれあいとして	42	6.9	87	9.6
友人・仲間との交流として	96	21.6	342	37.7
美容や肥満解消のため	84	18.9	127	14.0
コロナ禍で在宅時間が増えたため	13	2.9	—	—

「健康・体力づくりのため」に実施する割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、「自己の記録や能力を向上させるため」に実施する割合は 30 歳代以降少なくなることが分かりました。

(表 3-2)

表 3-2 この1年間で運動・スポーツを実施した理由(複数回答)(世代別)

項目	20歳代 (n=22)	30歳代 (n=44)	40歳代 (n=77)	50歳代 (n=78)	60歳代 (n=109)	70歳代 (n=140)
健康・体力づくりのため	54.5%(12)	47.7%(21)	51.9%(40)	65.4%(51)	67.0%(73)	65.0%(91)
楽しみ、気晴らしとして	63.6%(14)	40.9%(18)	44.2%(34)	46.2%(36)	54.1%(59)	45.0%(63)
運動不足を感じるから	50.0%(11)	45.5%(20)	55.8%(43)	55.1%(43)	44.0%(48)	42.9%(60)
精神の修養や訓練のため	18.2%(4)	11.4%(5)	2.6%(2)	3.8%(3)	3.7%(4)	4.3%(6)
自己の記録や能力を向上させるため	18.2%(4)	2.2%(1)	3.9%(3)	7.7%(6)	4.6%(5)	2.9%(4)
家族とのふれあいとして	9.1%(2)	15.9%(7)	19.5%(15)	10.3%(8)	6.4%(7)	2.1%(3)
友人・仲間との交流として	4.5%(1)	15.9%(7)	13.0%(10)	9.0%(7)	26.6%(29)	29.3%(41)
美容や肥満解消のため	31.8%(7)	22.7%(10)	26.0%(20)	33.3%(26)	11.0%(12)	5.0%(7)
コロナ禍で在宅時間が増えたため	4.5%(1)	0.0%(0)	6.5%(5)	3.8%(3)	3.7%(4)	1.0%(1)



運動・スポーツを実施しなかった理由は、「機会がなかったから」が 44.1%と高い割合を示しましたが、前回調査よりは減少している傾向が確認されました。特に、「時間がなかったから」は 30.0%から 26.5%に減少していました。また、「コロナ禍だから」は 20.3%でした。最後に、「運動・スポーツは嫌いだから」は前回調査 13.3%から、今回 22.0%と高くなっており、この傾向は注意が必要と考えています。(表 4-1)

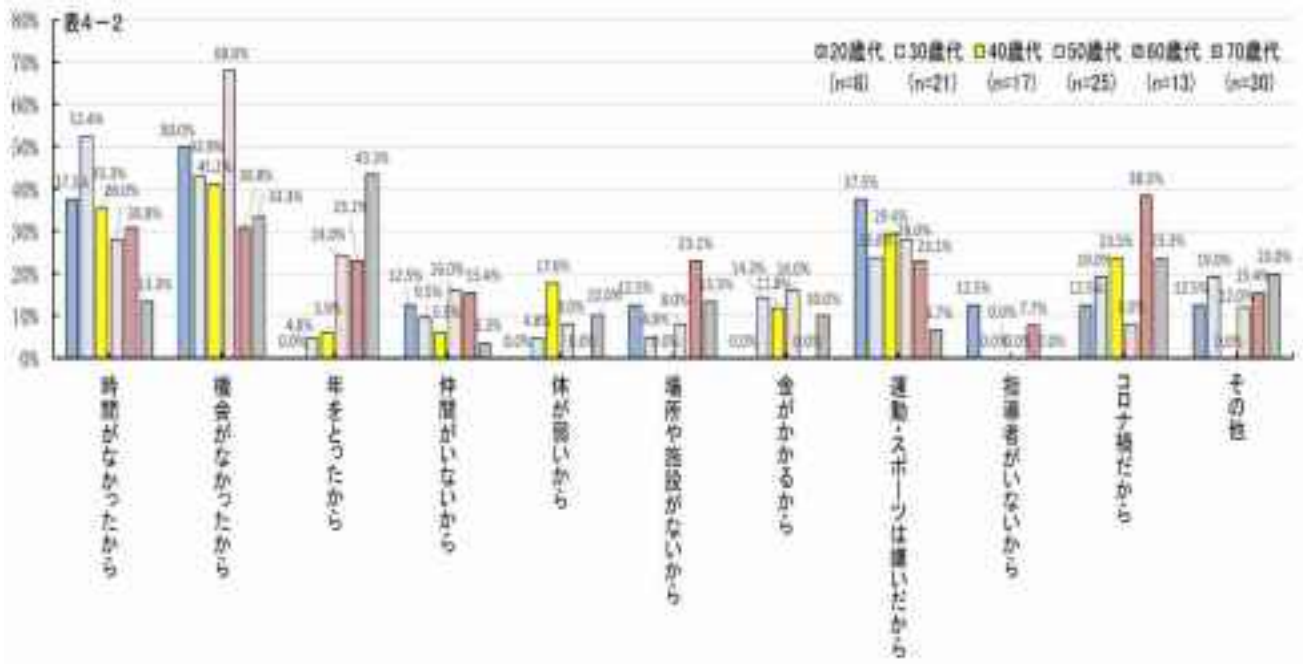
表 4-1 この1年間で運動・スポーツを実施しなかった理由(複数回答)

項目	R3 年度調査(n=118)		前回調査(n=241)	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
時間がなかったから	35	30.0	106	44.0
機会がなかったから	52	44.1	116	48.1
年をとったから	24	20.3	43	17.8
仲間がいないから	11	9.3	37	15.4
体が弱いから	10	8.5	20	8.3
場所や施設がないから	11	9.3	16	6.6
金がかかるから	13	11.0	32	13.3
運動・スポーツは嫌いだから	26	22.0	32	13.3
指導者がいないから	2	1.7	6	2.5
コロナ禍だから	24	20.3	—	—
その他	16	13.6	51	21.2

世代によって実施しない理由が異なり、「時間がなかったから」は 20～40 歳代が多いのに対し、「年をとったから」は 40 歳代から増加し、70 歳代で大幅に増加しています。(表 4-2)

表 4-2 この1年間で運動・スポーツを実施しなかった理由(複数回答)(世代別)

項目	20 歳代 (n=8)	30 歳代 (n=21)	40 歳代 (n=17)	50 歳代 (n=25)	60 歳代 (n=13)	70 歳代 (n=30)
時間がなかったから	37.5%(3)	52.4%(11)	35.3%(6)	28.0%(7)	30.8%(4)	13.3%(4)
機会がなかったから	25.0%(4)	42.9%(9)	41.2%(7)	68.0%(17)	30.8%(4)	33.3%(10)
年をとったから	0.0%(0)	4.8%(1)	5.9%(1)	24.0%(6)	23.1%(3)	43.3%(13)
仲間がいないから	12.5%(1)	9.5%(2)	5.9%(1)	16.0%(4)	15.4%(2)	3.3%(1)
体が弱いから	0.0%(0)	4.8%(1)	17.6%(3)	8.0%(2)	0.0%(0)	10.0%(3)
場所や施設がないから	12.5%(1)	4.8%(1)	0.0%(0)	8.0%(2)	23.1%(3)	13.3%(4)
金がかかるから	0.0%(0)	14.3%(3)	11.8%(2)	16.0%(4)	0.0%(0)	10.0%(3)
運動・スポーツは嫌いだから	37.5%(3)	23.8%(5)	29.4%(5)	28.0%(7)	23.1%(3)	6.7%(2)
指導者がいないから	12.5%(1)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	7.7%(1)	0.0%(0)
コロナ禍だから	12.5%(1)	19.0%(4)	23.5%(4)	8.0%(2)	38.5%(5)	23.3%(7)
その他	12.5%(1)	19.0%(4)	0.0%(0)	12.0%(3)	15.4%(2)	20.0%(6)



(3) 運動・スポーツの実施内容

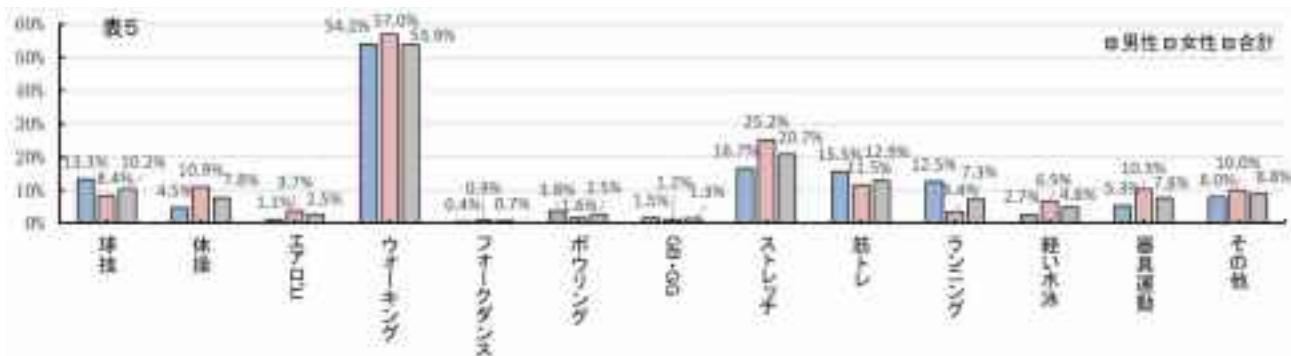
① 軽スポーツの実施状況

軽スポーツ実施者の種目別内容は、男女ともにウォーキングが 55.7%と一番多く、次いでストレッチの 16.6%と続き、筋トレ(13.3%)と球技(10.6%)が、それぞれ 10%以上を占めました。(表 5) 前回調査や国の調査結果と同様に、多くの人がウォーキングを軽スポーツとして、実施していることがわかりました。

表 5 軽スポーツの実施内容(複数回答)

項目	球技	体操	エアロビ	ウォーキング	フォークダンス	ボウリング	GB・GG	ストレッチ	筋トレ	ランニング	軽い水泳	器具運動	その他	
男性	人数	35	12	3	143	1	10	4	44	41	33	7	14	21
	割合(%)	13.3	4.5	1.1	54.1	0.4	3.8	1.5	16.6	15.5	12.5	2.7	5.3	8.0
女性	人数	27	35	12	183	3	5	4	81	37	11	22	33	32
	割合(%)	8.4	10.9	3.7	57.0	0.9	1.6	1.2	25.2	11.5	3.4	6.9	10.3	10.0
合計	人数	62	47	15	326	4	15	8	125	78	44	29	47	53
	割合(%)	10.6	8.0	2.6	55.7	0.7	2.6	1.4	21.4	13.3	7.5	5.0	8.0	9.1

※GB・GG:ゲートボール・グラウンドゴルフ

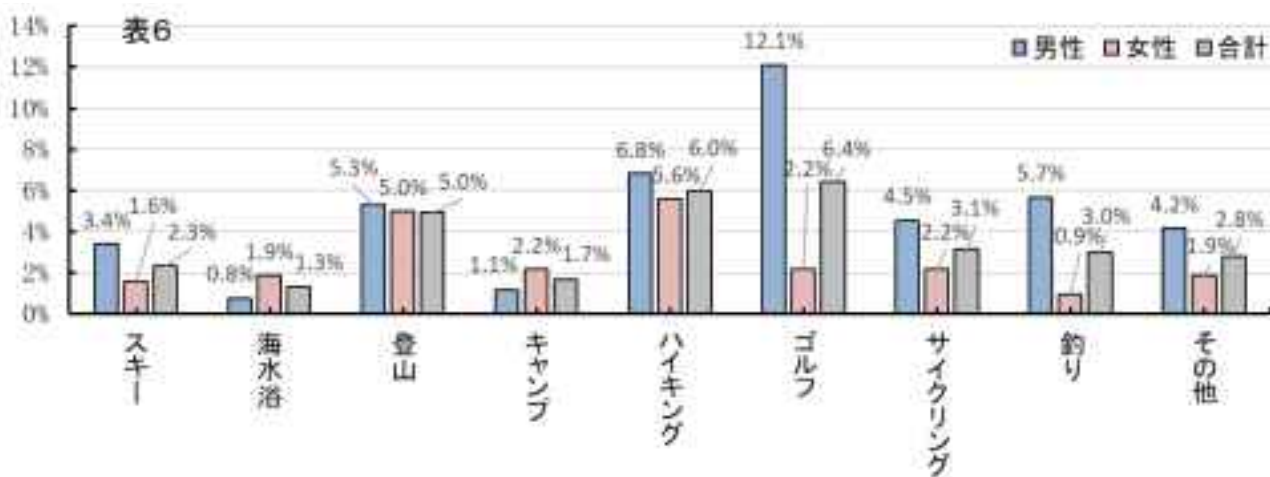


② 野外スポーツの実施状況

野外スポーツ実施者の種目別内容は、男性のゴルフが一番多く 12.1%、次いでハイキング(6.8%)、釣り(5.7%)、登山(5.3%)と続きました。一方で、女性はハイキングが 5.6%と一番多く、次いで登山が5%以上の割合で実施していました。(表 6) 野外スポーツの実施状況には、多少の性差もあることが明らかとなり、実施を支援する際の参考になりました。

表 6 野外スポーツ実施内容(複数回答)

項目	スキー	海水浴	登山	キャンプ	ハイキング	ゴルフ	サイクリング	釣り	その他
男性	人数 9 割合(%) 3.4	人数 2 割合(%) 0.8	人数 14 割合(%) 5.3	人数 3 割合(%) 1.1	人数 18 割合(%) 6.8	人数 32 割合(%) 12.1	人数 12 割合(%) 4.5	人数 15 割合(%) 5.7	人数 11 割合(%) 4.2
女性	人数 5 割合(%) 1.6	人数 6 割合(%) 1.9	人数 16 割合(%) 5.0	人数 7 割合(%) 2.2	人数 18 割合(%) 5.6	人数 7 割合(%) 2.2	人数 7 割合(%) 2.2	人数 3 割合(%) 0.9	人数 6 割合(%) 1.9
合計	人数 14 割合(%) 2.4	人数 8 割合(%) 1.4	人数 30 割合(%) 5.1	人数 10 割合(%) 1.7	人数 36 割合(%) 6.2	人数 39 割合(%) 6.6	人数 19 割合(%) 3.2	人数 18 割合(%) 3.1	人数 17 割合(%) 2.9

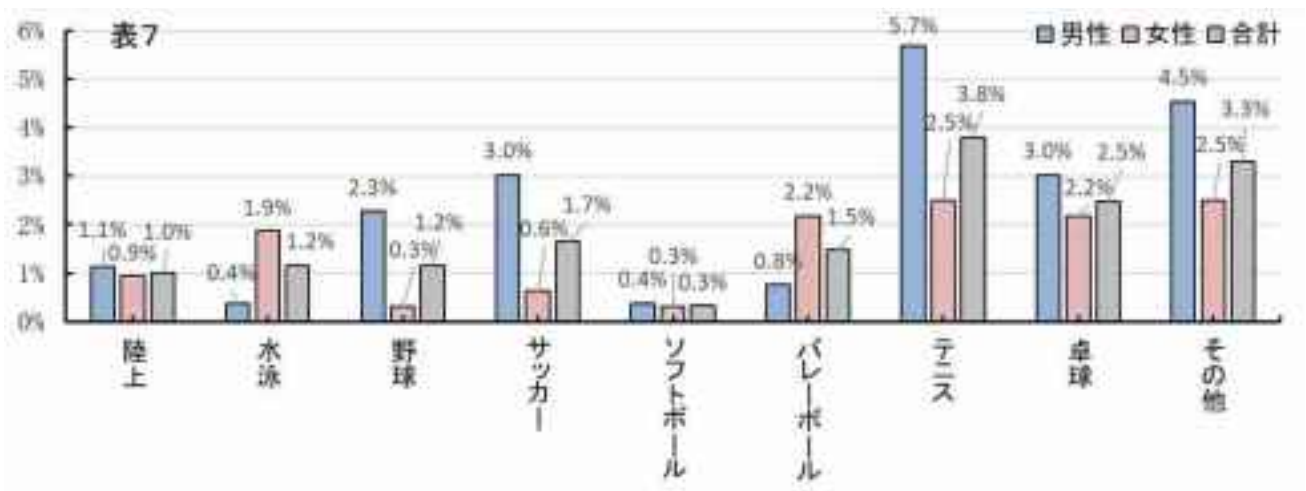


③ 競技スポーツの実施状況

競技スポーツの種目別実施状況は、男女の割合に大きな差異は認められませんでした。実施内容では、男性で5%以上の人を実施しているスポーツは、テニスでした。一方、女性は、5%以上の人を実施する競技はなく、テニス、バレーボール、卓球が多い傾向であることが分かりました。(表7)

表7 競技スポーツの実施内容(複数回答)

項目	陸上	水泳	野球	サッカー	ボールソフト	ボールバレー	テニス	卓球	その他
男性 (人)	3	1	6	8	1	2	15	8	12
(%)	1.1	0.4	2.2	3.0	0.4	0.8	5.7	3.0	4.5
女性 (人)	3	6	1	2	1	7	8	7	8
(%)	0.9	1.9	0.3	0.6	0.3	2.2	2.5	2.2	2.5
合計 (人)	6	7	7	10	2	9	23	15	20
(%)	1.0	1.2	1.2	1.7	0.3	1.5	4.0	2.6	3.4



(4) 運動・スポーツの満足度

運動・スポーツ実施の満足度については、前回同様、「運動・スポーツを十分に行っており、満足している」が13.9%に対し、「もっと行いたい」が22.9%、「行いたいと思っているが、できない」は52.6%と両項目で75.5%を占め、運動・スポーツの実施への意欲はあるが、満足に行えていないことが示唆されました。この傾向は、前回調査時の70.0%とほとんど変化がありませんでした。(表8-1) 一方で、「運動スポーツに関心がない」が10.6%であり、健康や社会参加の観点からも重要な運動に対して、無関心な人がいることへの対策も必要であることが明らかとなりました。

表 8-1 自身の運動・スポーツ実施状況への満足度

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
運動・スポーツを十分に行っており、満足している	80	13.9%	233	21.4
運動・スポーツを行ってはいるが、もっと行いたい	132	22.9%	341	31.3
運動・スポーツを行いたいと思っているが、できない	303	52.6%	422	38.7
運動・スポーツに関心がない	61	10.6%	95	8.7
合計	576	100.0	1091	100.0

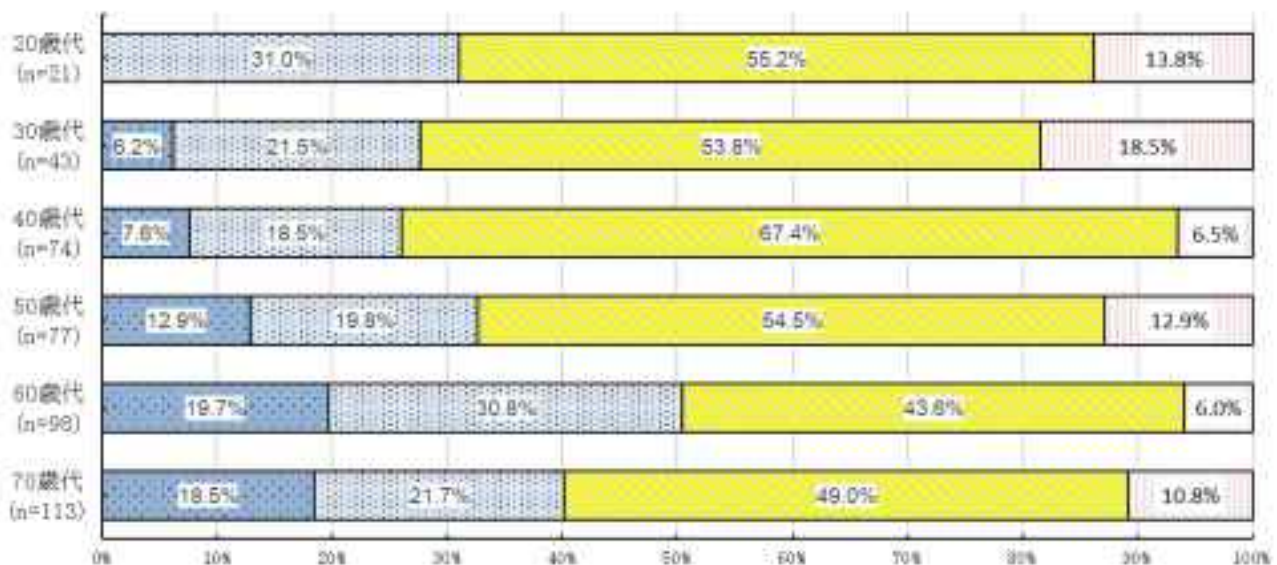
世代別の分析では、60 歳代以上では約 20%は満足していました。また、どの世代も 20~30%の人は、運動・スポーツをもっと行いたいと思っていることが分かりました。一方で、20~30 歳代の約 15%は運動・スポーツへの関心がないことも分かりました。(表 8-2)

表 8-2 自身の運動・スポーツ実施状況への満足度(世代別)

項目	20 歳代 (n=29)	30 歳代 (n=65)	40 歳代 (n=92)	50 歳代 (n=101)	60 歳代 (n=117)	70 歳代 (n=157)
運動・スポーツを十分に行っており、満足している	0%(0)	6.2%(4)	7.6%(7)	12.9%(13)	19.7%(23)	18.5%(29)
運動・スポーツを行ってはいるが、もっと行いたい	31.0%(9)	21.5%(14)	18.5%(17)	19.8%(20)	30.8%(36)	21.7%(34)
運動・スポーツを行いたいと思っているが、できない	55.2%(16)	53.8%(35)	67.4%(62)	54.5%(55)	43.6%(51)	49.0%(77)
運動・スポーツに関心がない	13.8%(4)	18.5%(12)	6.5%(6)	12.9%(13)	6.0%(7)	10.8%(17)

表 8-2

■ 運動・スポーツを十分に行っており、満足している
■ 運動・スポーツを行ってはいるが、もっと行いたい
■ 運動・スポーツを行いたいと思っているが、できない
■ 運動・スポーツに関心がない



(5) 自己の身体や健康に対する認識

① 健康観、肥満感、運動不足感について

市民の健康観については、市民の80.5%は、「大いに健康である」もしくは「どちらかといえば健康である」を選択し、健康であるという認識が高いことが明らかとなりました(表9)。一方で、市民の肥満感に対しては、41.1%が「少し肥満である」もしくは「とても肥満である」を選択し、体重減少をはじめとする肥満解消が必要である認識であることが分かりました。(表10) また、市民の普段の運動不足感については、77.8%が「大いに感じる」もしくは「やや感じる」と回答しており、市民の大部分が運動不足と感じていることが分かりました。(表11)

表9 市民の健康観

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
大いに健康である	80	13.2	133	11.6
どちらかといえば健康である	407	67.3	936	81.6
どちらかといえば健康でない	89	14.7	—	—
健康でない	27	2.4	71	6.2
無回答	2	0.3	7	0.6
合計	605	100.0	1147	100.0

表10 市民の肥満感

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
とても痩せている	13	2.1		
痩せている	64	10.6	472	41.2
普通である	276	45.6		
少し肥満である	209	34.5	455	39.7
とても肥満である	40	6.6	201	17.5
無回答	3	0.5	19	1.7
合計	605	100.0	1147	100.0

表11 市民の普段の運動不足感

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
大いに感じる	218	36.0	386	33.7
やや感じる	253	41.8	552	48.1
あまり感じない	118	19.5	207	18.0
全く感じない	11	1.8		
無回答	5	0.8	2	0.2
合計	605	100.0	1147	100.0

②体力感、体力の衰え感について

市民の体力感については、市民の 48.9%は、「大いに自信がある」もしくは「どちらかといえば体力に自信がある」と回答し、体力への考え方は自信と不安が半数ずつであることが分かりました。

(表 12) 一方で、体力の衰え感については、市民の 85.8%が「大いに感じる」もしくは「やや感じる」と回答し、体力の衰え感を感じていることが明らかとなりました。(表 13)

表 12 市民の体力感

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
大いに自信がある	31	5.1	107	9.3
どちらかといえば体力に自信がある	265	43.8	825	71.9
どちらかといえば体力に不安がある	255	42.1		
体力に不安がある	52	8.6	211	18.4
無回答	2	0.3	4	0.3
合計	605	100.0		

表 13 市民の体力の衰え感

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
大いに感じる	172	28.4	327	28.5
やや感じる	347	57.4	732	63.8
あまり感じない	74	12.2	87	7.6
全く感じない	8	1.3		
無回答	4	0.7	1	0.1
合計	605	100.0	1147	100.0

③肉体的疲労感、精神的疲労感について

市民の肉体的疲労感は、69.8%が「大いに感じる」もしくは「やや感じる」と回答していました。

(表 14) また、精神的疲労感は、71.9%が「大いに感じる」もしくは「やや感じる」と回答していました。

(表 15) 肉体的な側面からも精神的な側面からも疲労感を感じていることが明らかとなりました。疲労を感じていることが、運動・スポーツ実施を難しくする一因となっている可能性も考えられました。

表 14 市民の肉体的疲労感

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
大いに感じる	79	13.1	206	18.0
やや感じる	343	56.7	787	68.6
あまり感じない	164	27.1	152	13.3
全く感じない	16	2.6		
無回答	3	0.5	2	0.2
合計	605	100.0	1147	100.0

表 15 市民の精神的疲労感

項目	R3 年度調査		前回調査	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
大いに感じる	117	19.3	233	20.3
やや感じる	318	52.6	701	61.1
あまり感じない	155	25.6	211	18.4
全く感じない	13	2.1		
無回答	2	0.3	2	0.2
合計	605	100.0	1147	100.0

④体力・健康への配慮について

市民の健康・体力維持増進のために心がけていることを複数回答で求めたところ、「食生活に気を付ける」が 67.8%、「睡眠や休養をよくとる」が 55.7%と半数以上の人が意識していることが明らかとなりました。一方、「運動やスポーツをする」が 41.2%、「日常生活で、できるだけ身体活動の機会を増やす」が 38.2%でした。健康の三要素と言われる運動・栄養・休養のうち、運動や身体活動の実施については、食事や休養より低いこと示されました。(表 16) 運動・スポーツの実施についても、食事や休養と同程度までの心がけが必要と考えています。

表 16 健康・体力維持増進への心がけ(複数回答)

項目	R3 年度調査(n=605)		前回調査(n=1147)	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
食生活に気を付ける	410	67.8	805	70.2
睡眠や休養をよくとる	337	55.7	604	52.7
運動やスポーツ(体操や散歩を含む)をする	249	41.2	514	44.8
日常生活で、できるだけ身体活動の機会を増やす (車を利用せず、歩くなど)	231	38.2	415	36.2
規則正しい生活をする	224	37.0	402	35.0
酒、たばこを控える	81	13.4	175	15.3
その他	20	3.3	—	—

(6) 運動・スポーツ活動を実施する環境整備

①公共スポーツ施設への要望

公共スポーツ施設に望むことは、「身近で利用できるよう、施設数の増加」が 42.6%で、最も高い割合でした。「利用手続き、料金支払い方法の簡略化」、「利用案内など広報の充実」、「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」についても 4~5 人に 1 人が回答しており、これらの要望を参考にしながら、環境を整えていく必要があると考えます。(表 17)

表 17 運動・スポーツ施設への要望(複数回答)

項目	人数	割合(%)
身近で利用できるよう、施設数の増加	240	42.6
指導者の配置	54	9.6
初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実	122	21.7
利用手続き、料金支払い方法の簡略化	143	25.4
利用時間帯の拡大(早朝、夜間など)	93	16.5
利用案内など広報の充実	131	23.3
アフタースポーツのための施設(レストラン等)の充実	82	14.6
高齢者や障がい者に配慮した施設・設備の整備	102	18.1
健康やスポーツに関する情報の充実	87	15.5
託児施設の充実	23	4.1
特になし	148	26.3
その他	34	6.0

②運動・スポーツに関する情報や内容への要望

市民が求めるスポーツ情報については、「健康・体力づくりの情報」が 38.6%、「スポーツ施設の案内」が 35.5%、であり、「各種スポーツ教室の案内」(29.8%)を含めて、これらの情報が多く望まれていることが分かりました。(表 18)

表 18 運動・スポーツに関する情報や内容への要望(複数回答)

項目	人数	割合(%)
健康・体力づくり情報	223	38.6
スポーツ施設の案内	205	35.5
各種スポーツ教室の案内	172	29.8
新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報	123	21.3
スポーツ行事やスポーツイベントの情報	73	12.7
クラブ・同好会の活動案内	106	18.4
自分ができるスポーツ競技会の情報	37	6.4
スポーツに関する医学的・科学的情報	68	11.8
各種スポーツ指導者の紹介	20	3.5
特になし	132	22.9
その他	12	2.1

③運動・スポーツ情報獲得の手段について

市民の運動・スポーツ情報の獲得手段は、「市の広報」が 62.9%で一番多く、「タウン紙」が 30.9%、「市ホームページなど公式 SNS」が 24.0%と続きました。市の広報が運動・スポーツ情報を市民に届ける重要な媒体となっていることが分かりました。

表 19 運動・スポーツ情報獲得の手段(複数回答)

項目	人数	割合(%)
市の広報	346	62.9
タウン紙	170	30.9
公民館だより	60	10.9
知人等からの口コミ	109	19.8
市ホームページなど公式 SNS	132	24.0
公共施設のチラシ等	65	11.8
その他	40	7.3

(7)スポーツ推進に関わる市民からの提言

スポーツ推進のために市が取り組むべき課題については、「手軽にスポーツができる公園の整備」が 50.9%と最も多いことが明らかになりました。次いで、「年齢層にあったスポーツの開発と普及」が 36.9%、「ジョギングなどができる道路の整備」が 32.1%で、スポーツ施設の整備より公園や道路などの身近な公共施設の充実を望んでいることが分かりました。

表 20 スポーツ推進のために市が取り組むべき課題(複数回答)

項目	本年度調査(n=605)		前回調査(n=1147)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
手軽にスポーツができる公園の整備	308	50.9	586	51.1
年齢層にあったスポーツの開発と普及	223	36.9	330	28.8
ジョギングなどができる道路の整備	194	32.1	349	30.4
各種スポーツ行事・大会・教室の開催	69	11.4	163	14.2
スポーツに関する広報活動の工夫と強化	79	13.1	150	13.1
地域のクラブやサークルの育成	83	13.7	165	14.4
学校体育施設の開放と整備	68	11.2	144	12.6
スポーツ指導者の養成	28	4.6	57	5.0
公共スポーツ施設における健康・体力相談体制の整備	71	11.7	129	11.2
野外スポーツ活動施設の整備	48	7.9	155	13.5
野外を除く各種スポーツ施設の整備	42	6.9	106	9.2
スポーツボランティアの支援	14	2.3	39	3.4
オンラインでのスポーツ事業の開催	12	1.9	—	—
わからない	47	7.8	140	12.2
その他	15	2.5	—	—

(8) 各種事業の認知度について

これまで実施してきた事業の認知度および参加経験について調査したところ、認知度が最も高い事業は、「大山登山マラソン」が 88.8%、次に「伊勢原市駅伝競走大会」が 63.3%でした。参加経験の高い事業については、「伊勢原市総合体育大会」が 11.7%で、それ以外は 10%以下の参加率でした。70%以上の方が「知らない」と回答した事業がほとんどで、長期的に実施している事業でも市民が認知していないことを確認しました。前述の市民のスポーツ情報の獲得手段が市の広報であることを考慮すると、情報発信の方法に工夫が必要であると考えます。

表 21 市の実施した事業の認知度および参加経験について

項目	回答者数	参加経験(知っている)		知らない
		あり	なし	
伊勢原市駅伝競走大会	553	2.7%	60.6%	36.7%
市民走れ走れ大会	537	3.5%	43.9%	52.5%
大山登山マラソン大会	562	3.4%	85.4%	11.2%
クルリン健康ポイント	536	3.7%	22.4%	71.8%
伊勢原市総合体育大会	545	11.7%	36.1%	52.1%
伊勢原市選手権大会	542	5.0%	17.3%	77.7%
すこやか少年少女スポーツフェスティバル	539	3.2%	19.7%	77.2%
ボッチャ体験教室	539	1.3%	16.0%	82.7%
親子タグラグビー教室	538	0.7%	12.3%	87.0%
チームライフル体験教室	537	3.7%	17.3%	79.0%
障がい者スポーツ教室(フライングディスク教室)	538	0.9%	11.0%	88.1%
東海大学健康クラブ(総合型地域スポーツクラブ)	546	2.4%	15.8%	81.9%
伊勢原・ふれすぼ(総合型地域スポーツクラブ)	543	1.8%	14.2%	84.0%
いせはら CITY ウォーク	545	1.8%	24.0%	74.1%
ウォーキングガイド(2015年公開)	537		13.2%	86.8%

3 前計画による取組みとこれまでの評価

前計画での目標に対する実績と各目標に対する施策および実績を評価しました。基本目標に対応する施策の実績については、簡潔にまとめ、本計画作成の基本情報としました。

【目標と実績】

《実施目標》

目標	R3 実績(前回調査)
週 1 回 30 分以上の運動・スポーツ実施率を 65%程度	53.4% (54.5%)
週 2 回 30 分以上の運動・スポーツ実施率を 50%程度	39.0% (40.8%)
週 3 回 30 分以上の運動・スポーツ実施率を 30%程度	23.0% (22.0%)

《基本目標と施策》

基本目標	(1)スポーツをつなぐ情報提供の推進	
施策	① スポーツ情報提供システム整備・充実	②スポーツ情報の活用促進
実績	伊勢原市スポーツ協会のホームページを開 設し、加盟競技団体のホームページにリンク することで、情報のネットワーク化を図りまし た。(R3:21 団体中 10 団体)	既存の公共施設利用予約システムの対象施設に 学校施設開放やスポーツ広場を追加し、施設利 用者の更なる利便性向上に努めました。

基本目標	(2)スポーツを支える人材の育成	
施策	① スポーツ指導者の養成確保と活用	②スポーツボランティアの組織や仕組みの整備
実績	地域のスポーツコーディネーターでもあるス ポーツ推進委員について、県央ブロック研修 会や県スポーツ推進委員研修会などに参加 し資質向上を図りました。(R3:スポーツ推進 委員 41 人)	大山登山マラソン大会では、多くのボランティ アに参加いただきました。また、伊勢原駅伝競走大 会などのスポーツイベントでは、スポーツ関係団 体と協働で実施し、共催事業として進めました。

基本目標	(3)スポーツをする場所の整備	
施策	① 既存スポーツ施設の整備・充実	②新たなスポーツ施設の整備
実績	市体育館などの有料公園施設や青少年セン ター体育館・弓道場の施設運営をスポーツ 課に移管し、窓口等の一本化を図りました。	平成 28 年に上満寺多目的スポーツ広場を新しく 整備し、市民や青少年のスポーツ活動の場として 活用しています。
施策	③民間スポーツ施設との連携	
実績	テニスコートを 1 事業者、プールを 2 事業者と契約を結び市民に開放してきましたが、プールの 2 事業者が令和元年度と令和 3 年度に施設を閉鎖したため、テニスコートのみの開放となっていま す。(R3 利用者数:テニスコート 46 件、プール 43 件)	

【施設利用者数実績】	平成 30 年度	令和 3 年度	増減
伊勢原市体育館	143,186 人	75,338 人	▲67,848
いせはらサンシャインスタジアム	22,654 人	18,825 人	▲3,829
伊勢原市立武道館	34,499 人	32,659 人	▲1,840
チャンピオンすずかわ野球場	17,548 人	15,354 人	▲2,194
チャンピオンすずかわプール	4,375 人	3,347 人	▲1,028
チャンピオンすずかわテニスコート	20,615 人	24,449 人	3,834
市ノ坪公園テニスコート	27,291 人	28,539 人	1,248
東富岡公園テニスコート	26,861 人	38,536 人	11,675
上満寺多目的スポーツ広場	19,217 人	4,947 人	▲14,270
こどもスポーツ広場	44,737 人	34,268 人	▲10,469
大田すこやかスポーツ広場	40,175 人	29,759 人	▲10,416

※令和元年度から新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少しているため、参考として平成 30 年度との比較。

基本目標	(4)スポーツをする機会の充実	
施策	①子どものスポーツ活動の推進	②健康・体力づくり事業の振興
実績	スポーツ少年団との連携により各競技大会だけでなく、すこやか少年少女スポーツフェスティバルやジュニアリーダー研修会の開催、市民走れ走れ大会への参加など、子どもたちの健全育成とスポーツ環境の維持向上に努めました。(R3:スポーツ少年団構成15単団体、538人)	スポーツ推進委員協議会や地区学区体力づくり振興会の事業支援を行うとともに、自治会やスポーツ関係団体、企業との協働により「住民総参加型スポーツイベントチャレンジデー」に7年連続で参加するなど、運動のきっかけづくりの提供や継続した運動による健康増進を図りました。
施策	③中高齢者の健康寿命の延伸	④総合型地域スポーツクラブの育成
実績	スポーツ関係団体と連携し、市総合体育大会におけるシニア部門により、中高齢者の健康維持増進が図られました。(R3:17競技中5競技)	「東海大学健康クラブ」の育成及び運営支援を行うとともに、子育て中の親子から中高齢者まで誰もが参加できるスポーツクラブ「伊勢原・ふれすぽ」の創設を支援しました。(R3:市内の総合型地域スポーツクラブ数2団体)
施策	⑤競技スポーツの推進	
実績	全国大会や県大会などで優秀な成績を収めた市民や団体に、スポーツ賞やスポーツ奨励賞を顕彰するとともに、全国大会等に出場する選手に激励金を交付することで、競技スポーツへの関心と競技人口の増加を目指しました。(R3:激励金21件、スポーツ賞37件、スポーツ奨励賞2件)	

《評価》

10年間の計画期間においては、基本理念の実現と基本目標の達成に向けて、12項目の施策を実施してきました。地域や大学、民間事業者等と連携して「チャレンジデー」や「クルリン健康ポイント事業」の開催、市内で2クラブ目となる総合型地域スポーツクラブの創設など、継続的な運動・スポーツ活動の機会の提供や市民が日常的に運動・スポーツをするきっかけづくりに取り組みました。

また、スポーツ関係団体と連携・協働を図り、市総合体育大会や市選手権大会の開催による競技人口の拡大やスポーツ指導者の養成講座による人材育成などを推進してきました。

これらの施策の評価として、週1日以上運動実施率は、平成22年で50.7%、平成27年で54.5%、令和3年で53.4%となっており、前期では3.8ポイント増加していますが、後期では1.1ポイントの減となっています。

運動・スポーツを実施していない人の割合は、平成22年で18.5%、平成27年で21.0%、令和3年で19.5%となっており、前期で2.5%増加、後期で1.5%減少しています。計画期間後期における運動実施率の減の原因としては、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいものと考えられますが、引き続き週1日以上運動実施率の向上と運動を実施しない人の割合を減少させるためには、継続した施策の充実と実施が必要であると考えました。

4 策定に向けた新たな視点

(1) スポーツにおけるSDGs(持続可能な開発目標)

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。

スポーツ庁では、このSDGsの達成にスポーツで貢献していくこととしています。スポーツの持つ、人々を集める力や人々を巻き込む力を使って、SDGsの認知度向上、ひいては、社会におけるスポーツの価値のさらなる向上に期待し「スポーツSDGs」に取り組むこととしています。



(2) スポーツを「する・みる・ささえる」ことを実現する社会を目指すために必要な3つの新たな視点

1 「つくる／はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し・改善し、最適な手法・ルールを考え、作り出す。

2 「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、課題の対応や活動の実施を図る。

3 「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違いによって、スポーツ活動の開始や継続に差が生じないような社会の実現や機運の醸成を図る。

この3つの新たな視点は、それぞれが完全に独立したものとして捉えるのではなく、相互に密接に関係しあう側面があることに留意し、スポーツの価値を高めるための3つの新たな視点を支える施策を本計画の中で展開していきます。